

8

CZ
431
06

禁電子式複写

行政法協會
評議員
伊藤直純編纂

現行

森林法規

完

東京

行政法協會出版

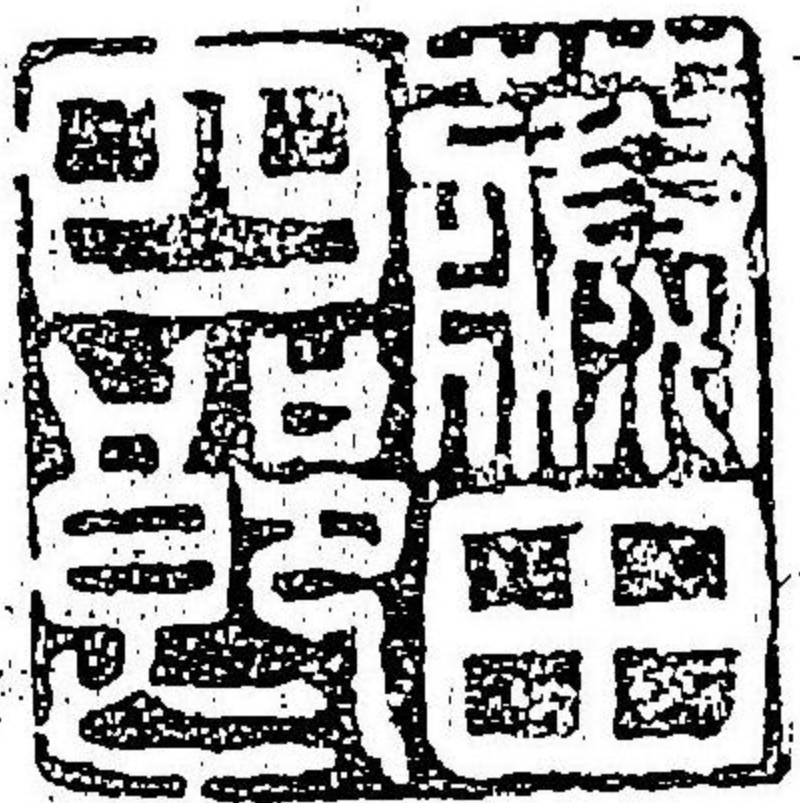
CZ
431
06

82-81

可樓
德本
用不



戊戌友日 龍池題



目次

一 森林法(法律).....	一
一 森林法施行細則(農商務省令).....	一七
一 保安林取扱心得(同省訓令).....	二三
一 保安林臺帳規程(同上).....	三三
一 保安林簿規程(同上).....	三七
一 保安林損害算出規程(同省令).....	三九
一 地方森林會規則(勅令).....	四一
一 保安林ニ關スル規程ニ限リ森林法ヲ施行スヘキ嶋嶼指 定ノ件(同上).....	四五
一 沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル嶋嶼ノ保安林編入解除 ニ關スル手續(勅令).....	四七

目次

一

一 北海道保安林編入解除手續勅令……………四九

一 保安林編入調書様式……………五一

一 森林開墾許可申請書例……………五五

行現 森林法規目次終

行現 森林法規

行政法協會評議員 伊藤直純編纂

法律第四十六號(明治三十年四月六日)

森林法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林及私有林ヲ謂フ

第二條 原野、山嶽、其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

第二章 營林ノ監督

森林法 第一章 總則 第二章 營林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保續ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ
私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第五條 前條ノ造林ヲ怠ルモノアルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其ノ箇所ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第三章 保安林

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入ス

ルコトヲ得

一 土砂壞崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所

二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所

三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所

四 頽雪、墜石ノ危險ヲ防止スルニ必要ナル箇所

五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所

六 魚附ニ必要ナル箇所

七 航行ノ日標ニ必要ナル箇所

八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所

九 社寺名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第九條 保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

第十條 保安林ノ編入解除ハ府縣郡市町村其ノ他直接ノ利害ヲ有ス

ル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ

地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ開會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ森林ノ所有者並大林區署土木監督署ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ揭示スヘシ

第十三條 保安林ニ編入ノ爲地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採土石切芝ノ採取樹根ノ探掘及開墜ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知

事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通達スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示若クハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス
第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取樹根ノ探掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項ヲ實施セサル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其費用ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上クムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限リ補償

ヲ求ムルコトヲ得但シ御料林、國有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス

前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以內ヲ補助スルコトヲ得
損害ノ算定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサルトキハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以內ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス
第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ

借地料ヲ免ス

第三十條 從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノ、使用ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手板帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得スシテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ

豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ蟲害アルヲ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

第五章 罰則

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金又ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其ノ主副産物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ右ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰

金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

一根株ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ノ煙滅ヲ圖リタルトキ

二贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタル

トキ

三贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取精製若ハ石灰、煉化石瓦其ノ他ノ物

品ノ製造ニ使用シタルトキ

四犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ

五保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六林產物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罰ヲ犯シタルトキ

七三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

八契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九差押ノ贓物ヲ隱匿若ハ消費シタルトキ

第三十九條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買

シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓

以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主產物

ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二月

以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十二條 濫ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以

上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二

圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルト

キハ刑法第四百二十條ヲ適用ス

第四十四條 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除

シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得スシテ森林ヲ開墾シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者

ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上ノ科料ニ處ス
第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第六章 雜則

第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス

第五十三條 森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦樟腦油蠟其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス

第五十四條 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅怠納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒

廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ
 得其ノ造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス
 第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其造林シタル部
 分ニ限リ翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得
 原野山嶽又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル
 第五十七條 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル嶋嶼ノ森林ニ
 就テハ保安林ニ關スル規程ニ限リ此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ
 編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

農商務省令第十九號(明治三十年十二月十四日)

森林法施行細則

第一條 府縣知事ハ森林法第三條乃至第五條第七條第二十一條乃至
 第二十四條及第五十五條ノ執行ヲ必要ト認ムルトキハ農商務大臣
 ニ具申シテ指揮ヲ請フヘシ
 第二條 保安林編入ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ保安林編入調書
 及圖面ヲ添付スヘシ
 保安林編入調書ノ様式ハ府縣知事之ヲ定ム
 第三條 保安林解除ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ解除ヲ要スル理
 由ヲ記載スヘシ
 但保安林幾部ノ解除ニ係ル場合ハ保安林ノ全部及解除スヘキ部分
 ヲ明示シタル圖面ヲ添付シ之ニ其解除スヘキ保安林ノ面積ヲ附記

スヘシ

第四條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ若ハ保安林編入解除ニ就キ申請又ハ通知ヲ受ケタルモノニシテ其編入解除ニ就キ二府縣以上ノ利害ニ關係アルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通知スヘシ

第五條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ニ付地方森林會ノ答申書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ具シ關係書類ヲ添付シテ三十日以内ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第六條 農商務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ決定シタルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通達シ府縣知事ハ五日以内ニ府縣公報ヲ以テ其旨ヲ告示シ森林所在地ノ市町村役場ニ揭示シ且ツ其旨ヲ森林所有者ニ通達スヘシ

第七條 府縣知事ハ保安林ヲ買上クルノ必要アリト認ムルトキハ農商務大臣ノ指揮ヲ受ケ森林所有者ト協議シテ其買上價格ヲ定ムヘシ

第八條 保安林ノ買上價格又ハ補償金額ニ付協議整ハサル場合ニ於テハ森林法第二十七條ニ依リ府縣知事ハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ附シ其評決シタル買上價格又ハ補償金額ヲ關係者ニ通達スヘシ

第九條 保安林損害ノ補償若クハ其補償ノ補助ヲ受ケントスル者ハ其金額ヲ定メ算定理由ヲ詳述シタル請求書ヲ府縣知事ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十條 森林法第三十一條ニ依ル届書ハ其記號ノ形狀並ニ印影ヲ添付シタル書面ヲ作業地營業地ノ所轄警察署ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察署ハ所管小林區署ニ通知スヘシ

第十一條 森林内ニ火入ヲ爲サントスル者ハ豫メ期日ヲ定メ森林官若クハ警察官ニ申出許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ火入ヲ許可シタルトキハ別記火入許可證ヲ交付スヘシ

第十二條 森林内火入ノ當日ハ火入者ニ於テ前條ノ火入許可證ヲ現場ニ携帯スヘシ

第十三條 森林内又ハ森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ火入期日前ニ火入箇所隣接地ノ所有者若クハ管理者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第十四條 火入ノ場合ニ於テ他ニ延燒ノ虞アリト認メタルトキハ森林官又ハ警察官ハ其火入ヲ差止メ火入方法又ハ火入期日ヲ改メシメ若クハ相當ノ設備ヲ爲サシムヘシ

(別記)

表

證 可 許 入 火 林 森			
年 月 日	届 出 日	火 入 箇 處	火 入 日 期
			火 入 人

裏

火入人ハ火入當日此ノ證書ヲ現場ニ携帶シ森林官又ハ警察官ニ要求アリタルトキハ火入ノ要ヲ示スヘシ

火入箇所ハ豫メ火入期日ヲ火入箇所ニ接續セル森林其他土地ノ所有者若クハ管理者ニ通知スヘシ

火入期日ハ許可ヲ受ケタル後ト雖モ森林官又ハ警察官ノ指揮アリタルトキハ其指揮ニ從ヒテ變更スヘシ

他ノ延燒ノ爲シ尙森林官ノ防火設備ヲ爲シ尙森林官ノ防火設備ヲ爲シ尙森林官ノ防火設備ヲ爲シ尙森林官ノ防火設備ヲ爲シ

又ハ警察官ハ其指揮ニ從テ

農商務省訓令第三十二號(明治三十四年十二月十四日)

保安林取扱心得

第一章 保安林調査

第一條 保安林ハ設定ノ目的ニ依リ左ノ十二種ニ區分調査スルモノトス

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 一 土砂扞止林 | 二 飛砂防止林 | 三 水害防備林 |
| 四 防風林 | 五 潮害防備林 | 六 類雪防止林 |
| 七 墜石防止林 | 八 水源涵養林 | 九 魚附林 |
| 十 目標林 | 十一 衛生林 | 十二 風致林 |

第二條 保安林調査ニ於ケル地形地質ノ異同地物配置ノ狀態其他利害ノ關係ヲ推斷スルニ必要ナル事項ハ唯目的箇所ノ區域内ノミニ止マラス廣シ全般ノ形勢ニ注目スヘシ

第三條 保安林調査ニ於ケル目的箇所ノ區域面積其他必要ナル區界並ニ顯著ナル物件ノ位置等ノ調査ハ可成精確ナル方法ニ依リテ測量スヘシ

第四條 保安林調査ハ利害關係ノ顯著ナルモノヨリ漸次著手スヘシ保安林ノ編入ニ付申請アリタルトキ若クハ官廳ノ通知アリタルトキハ速ニ保安林調査ヲ行フヘシ

第五條 保安林調査ニ於テハ主トシテ左記各項ノ事項ヲ調査シ保安林編入調書ヲ製スヘシ

- 一 目的箇所ノ所在地籍地目地番及其所有主
- 二 面積及地價
- 三 地形地質及地盤面ノ形狀
- 四 現在ノ林況
- 五 保安林編入ノ事由

六 保安林編入後ニ於ケル營林及保護ノ方法其他必要ナル制限事項
七 保安林編入後ニ於ケル造林及地盤保護工事ノ種類並ニ方法
八 關係區域

第六條 保安林種類ノ選定ヲ爲スニ當リ編入ノ目的二種以上ニ涉ル場合ハ實地ノ形勢ニ依リテ效用ノ程度及必要ノ多少等ヲ比較シテ其主ナル種類ノ保安林ニ編入ノ目的ヲ以テ調査シ其旨ヲ調書ニ記入シ置クヘシ

第七條 保安林編入調書ハ別記様式ニ依リテ各調査箇所毎ニ調製シ保安林地圖ヲ添付スルモノトス

第八條 保安林地圖ハ各調査箇所毎ニ一圖トシ左ノ各項ヲ明示スルモノトス

- 一 調査箇所及其附近ノ地形
- 二 調査箇所ニ於ケル林況並ニ地物ノ配置

三境界並ニ鄰接地ノ種類

保安林地圖用紙ハ礬水引美濃紙半片一枚及二枚繼ノ三種各一葉ヲ以テ全紙トシ縮尺度ハ可成千分一二千分一及五千分一ノ三種中ニ就キ撰ムヘシ

第二章 保安林ノ施業

第九條 保安林ニ於テハ二團地以上ノ林ヲ併合シテ斫伐作業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 保安林ノ斫伐法ハ擇伐又ハ群成擇伐作業ヲ用ユルモノトス

第十一條 毎年ノ擇伐區域ハ立木竹地全面積ノ二十分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ス

第十二條 擇伐又ハ群成擇伐面積斫伐スヘキ木石ノ占領面積ハ立木竹地全面積ヲ輪伐齡ヲ以テ除シ得タル商ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス

群成擇伐ハ可成箇所ヲ増シ一箇所ノ面積ハカメテ狭小ナラシムヘシ

但手入間伐及被害木竹ノ斫伐ハ此限リニアラス

第十三條 保安林ニ於ケル輪伐齡ハ左ノ標準ニ依リ調査スヘシ

一 矮林二十年以上

一 喬林八十年以上

一 中林ノ上木ハ喬林ノ輪伐齡下木ハ矮林ノ輪伐齡

一 竹木五年

第十四條 斫伐ヲ行フニ於テハ到底地力ヲ維持シ若クハ回復スルノ見込ヲキモノ又ハ高地ノ森林ニシテ木竹ノ生長極メテ遲鈍ナル場所急斜砂岩地等ニシテ再ヒ森林ヲ仕立ツルコト困難ナル場所ノ如キハ斫伐ヲ禁止スヘシ

第十五條 防火及砂防ノ設備ノ必要アル箇所ハ豫テ其方法ヲ調査ス

第十六條 現在ノ保安林並ニ將來保安林ニ編入スヘキ箇所ニシテ荒廢ニ屬スルモノハ十箇年以内ニ造林セシムルノ目的ヲ以テ調査スヘシ

第三章 附則

第十七條 利害ノ關係ニ府縣以上ニ跨ル森林ニ在リテハ關係府縣知事協議ノ上便宜其主管ヲ定メテ保安林ノ調査ヲ爲スヘシ
 第十八條 保安林調査ハ國有林及部分林ニ在リテハ大林區署御料林ニ在リテハ御料局ニ委囑スルコトヲ得
 第十九條 森林法施行以前ノ編入ニ係ル保安林調査ハ森林法施行後五箇年以内ニ之ヲ調査スヘシ

保安林編入調査書

所在地(林ノ字) 何府縣何郡市何町村大字何字何番何山又ハ何林

所有者住所氏名	申請者住所氏名	全面積	保安林編入面積	保安林地價	傾斜	土地性	地界	樹種	樹齡	疎密
		百十五町五反步	七十五町步		平均凡三十度	上層ハ植質壤土(植土植質壤土砂質壤土砂土)ニシテ砂及礫ヲ混シ深サ六寸次ハ砂質粘土層砂層及礫層ニシテ其合計深サ二尺基岩ハ縁岩ニシテ所々ニ露出ス 落葉朽土少ナク稍乾燥ニシテ灌木及雜草疎生シ苔蘚ハ谿畔ニ少許ヲ見ルノミ 東ハ某所有ノ無立木地ナル山林南ハ何村共有秣場西及北ハ官有原野ニ接ス	檜六分花柏四分	五十年乃至七十年生ヲ主トシ間々十二三年生ノモノヲ混ス	疎(最密密中庸疎最疎)ニシテ一町步平均三百本日光殆ソト林地ニ注射ス	

保安林取扱心得 第三章 附則

況	
慣行ノ伐期	雜產物
八九十年	蔬菜、落葉、下草等少許
慣行ノ施業	被害ノ狀況
需用ヲ俟チ擇伐ス平均一箇年全面積ヲ伐採量千四尺ベニシテ空隙ニハ檜苗ヲ補植ス	良樹ノ伐採過量ナルカ故ニ林相亦昔日ノ觀ナク谿水著シク減少シ小雨ニモ土砂ヲ流シ混濁ス

施業法要						編入ノ事由
手入法	播植法	雜產物ノ採否	伐採面積	伐期	伐採法又ハ禁伐	保安林種類
適宜灌木ヲ刈除シテ稚樹ノ生育ヲ保護シ且今後何年間ニハ若干ノ間伐ヲ許ス	自然生ヲ撫育シ且ツ勉メテ檜ヲ補植シ速カニ密林トナスヲ要ス	落葉ノ採收ノミヲ許ス	五段歩	百五十年	擇伐	水源涵養林
						水源涵養土砂扞止ニ必要ノ森林ト認ム

臺帳番號	關係區域	領	
		取締法	地盤保護工事
臺帳ニハ編入調書番號ヲ記ス	何村何村ニケ村ノ水田灌溉ニ影響シ其段別凡何町步ナリ	野火ノ延焼ヲ防クニ注意シ豫メ周圍ニ幅五間以上ノ防火線ヲ設ケシム	砂防ノ爲メ積苗工ノ施行ヲ要ス

農商務省訓令第三十二號(明治三十年十二月十四日)

保安林臺帳規程

第一條 各地方廳ハ保安林臺帳ヲ備ヘ置クヘシ

前項ノ臺帳ハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林、私有林ヲ各別ニ編製スルモノトス

第二條 保安林臺帳ハ保安林ノ編入アリタルトキ及保安林取扱心得

第十九條ノ調査結了シタルトキハ之ヲ登録スルモノトス

第三條 保安林臺帳ハ別記様式ニ據リ之ヲ調製シ雛形ニ準シ圖面ヲ

添付スヘシ

第四條 保安林ヲ解除シ又ハ保安林臺帳ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度更正ヲ爲スモノトス

前項ニ依リ臺帳ノ更正ヲ爲シタルトキハ當省指令年月日及番號ヲ記入シ主任官吏ノ證印ヲ捺スヘシ

第五條 保安林臺帳ニ登録シタルトキハ第三條ノ様式ニ準シ一筆毎

ニ一通ヲ調製シ本省へ進達スヘシ

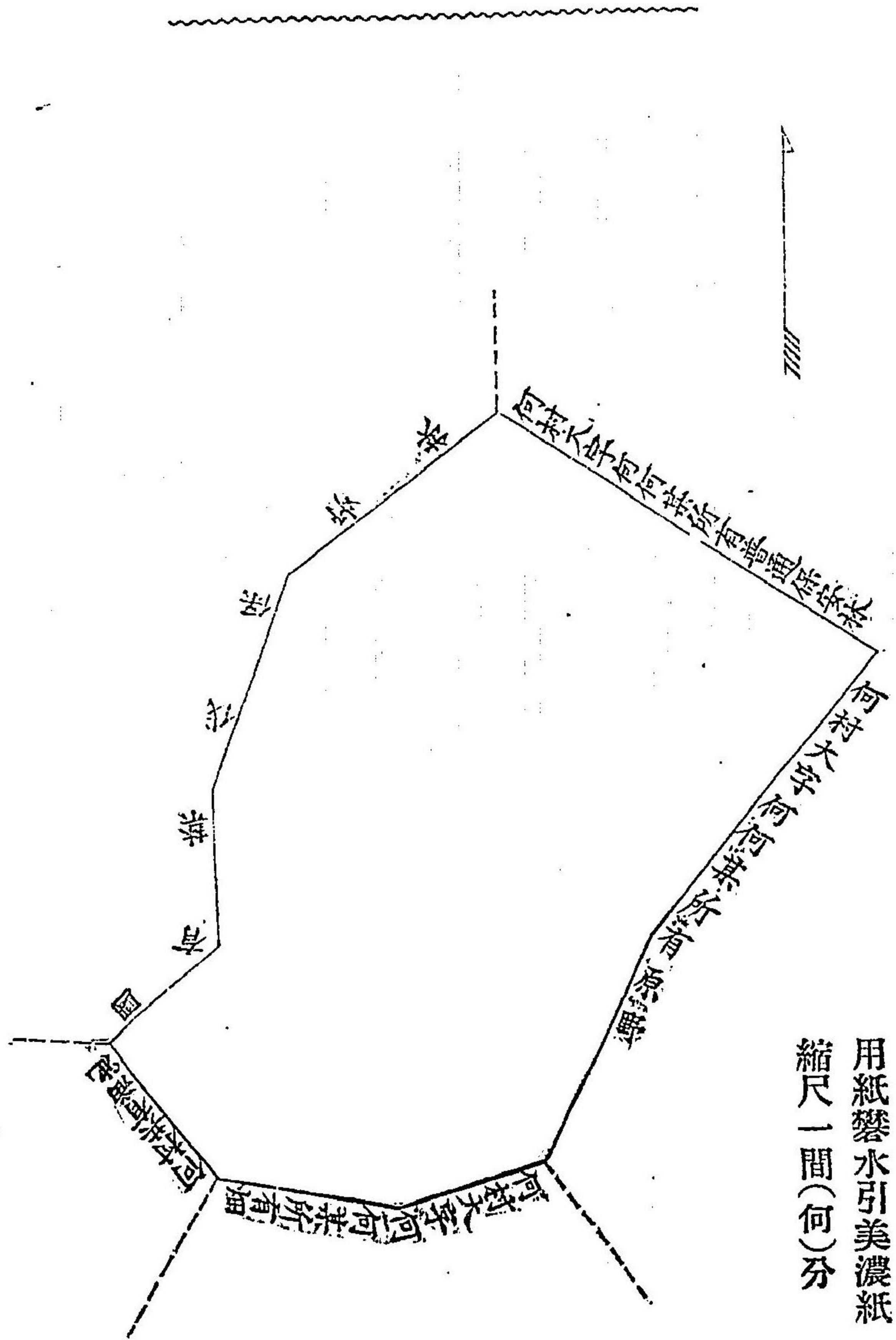
第四條ノ異動ヲ生シタルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ

第六條 保安林ニ就キ直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ保安林臺帳ノ
閱覽ヲ請フトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

(別記)

丁數	林安保(通普)伐禁				種	國	市郡	村町	大字	字	地番	編入年月日	用紙西ノ内								
	利害區域	地質	地勢	積面積										全面積	類	所有者	申請者	決伐	年	月	日

用紙鑿水引美濃紙
縮尺一間(何)分



保安林臺帳規程

農商務省訓令第三十三號(明治三十四年十二月十四日) 大林區署

保安林簿規程

第一條 大林區署長ハ所轄内ニ屬スル國有保安林簿ヲ調製シ大林區署ニ備ヘ置クヘシ

前項ノ林簿ハ國有林國有地ノ部分林ヲ各別ニ編製スルモノトス

第二條 保安林簿ハ別記様式ニ據リ之ヲ調製シ雛形ニ準シ圖面ヲ添付スヘシ

第三條 新タニ保安林編入ノ決定アリタルトキハ保安林簿ニ登録スヘシ其解除ノ決定又ハ保安林簿ニ記載シタル事項ニ異動アリタルトキハ其都度之ヲ更正スヘシ

前項ニ依リ保安林簿ノ更正ヲ爲シタルトキハ地方廳通知ノ年月日及番號ヲ記入シ主任官吏ノ證印ヲ捺スヘシ

第四條 森林法施行以前ノ編入ニ係ル保安林ニシテ假臺帳ヲ用ヒ來
リタルモノハ保安林取扱心得第十九條ノ調査結了ト同時ニ本規程
第二條ノ林簿ニ登録スルモノトス

(別記)

別表及圖面ハ前項保安林臺帳規程ニ掲クルモノト異ナラサルヲ
以テ之ヲ畧ス

農商務省令第二十一號(明治三十年十二月廿八日)

保安林損害算出規程

- 第一條 保安林ニシテ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル毎年ノ直
接損害額ハ普通保安林ノ作業ニ依リ得ヘキ伐期收入金隔年作業ノ場
合ニハ連年ノ場
合ニハ連年ノ場
- 第二條 伐木禁止ノ保安林ニシテ未タ伐期ニ達セサルモノハ普通保
安林ノ作業ニ於ケル伐期ニ達シタル時ヨリ前條ノ方法ニ依リ其損
害額ヲ算定ス
- 第三條 本規程ニ依リ用ユル利率ハ年五厘トシ損害額ハ十箇年ヲ過
クル毎ニ之ヲ修正スルコトヲ得

勅令第四百四十號(明治三十年
十二月九日)

地方森林會規則

第一條 地方森林會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ審議ス

一 保安林ノ編入又ハ解除

二 保安林買上價格ノ評決

三 保安林補償金額ノ評決

第二條 地方森林會ハ會務整理ノ爲必要ナル規則ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 地方森林會ハ議事上實地ノ調査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ議員ヲ派遣スルコトヲ得

第四條 地方森林會ノ開會及閉會ノ期日ハ府縣知事ノ稟請ニ依リ農商務大臣之ヲ定ム

地方森林會ノ審議事項ニシテ其ノ利害ノ關係ニ府縣以上ニ涉ルトキハ聯合地方森林會ヲ設クヘシ其ノ開會地及開會閉會ノ期日ハ關係地方府縣知事ノ稟請ニ依リ農商務大臣之ヲ定ム

第五條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ於テ地方森林會又ハ聯合地方森林會ノ解散ヲ命シ又ハ其ノ議事ヲ停止スルコトヲ得

一 第一條ニ掲クル事項ヲ審議セサルトキ

二 議事其ノ權限ヲ越ヘ若ハ法律命令ニ背クト認ムルトキ

聯合地方森林會解散ノ場合ニ於テハ之ニ關聯スル地方森林會ハ同時ニ解散セラレタルモノトス

解散ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ解散ヲ命シタル日ヨリ三十日以内ニ更ニ地方森林會ノ議員ヲ選定スヘシ

第六條 地方森林會ハ議長一名議員十四名以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條 議長ハ議事ヲ整理シ會務ヲ指揮ス

第八條 議長ハ府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

議員ハ左ニ掲クル者ニ就キ農商務大臣之ヲ選定ス但シ第五ニ該ルモノハ其ノ互選ニ依ル

一 府縣高等官 一人

二 土木監督署高等官 一人

三 鑛山監督署高等官 一人

四 大林區署高等官 一人

五 名譽職府縣參事會員 二人

府縣制ヲ實施セサル地方ニ在リテハ府縣常置委員 二人

六 森林事業ニ經驗アル者 若干

七 治水土木及鑛山事業ニ經驗アル者 若干

第九條 官吏ニシテ議員タル者ノ外議員ノ任期ハ二箇年トス

第十條 地方森林會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク

幹事ハ府縣高等官ヲ以テ之ニ充テ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理セシム

書記ハ議長ノ選任ニ依リ府縣判任官ヲ以テ之ニ充テ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事セシム

第十一條 聯合地方森林會議員ノ總數ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ議長幹事及書記ハ開會地ノ地方森林會議長幹事及書記ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 官吏ニシテ議長議員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ外議員ノ手當及旅費其ノ他地方森林會ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 聯合地方森林會ノ費用ハ議員ノ手當及旅費ヲ除ク外總テ開會地府縣ノ負擔トス

勅令第四百四拾四號(明治三十七年十一月十七日)

森林法第五十七條ニ依リ保安林ニ關スル規程ニ限リ森林法ヲ施行スヘキ島嶼左ノ通指定ス

東京府下

小笠原島 伊豆七島

長崎縣下

對馬國

島根縣下

隱岐國

鹿兒島縣下

大隅國大島郡

大島

徳ノ島

喜界島

沖永良部島

森林法第五十七條ニ依リ保安林ニ關スル規程ニ限リ森林法ヲ施行スヘキ島嶼左ノ通指定ス

與論島

薩摩國川邊郡

- 硫黃島
- 黑島
- 竹島
- 口之島
- 臥蛇島
- 平嶋
- 中之島
- 惡石島
- 諏訪ノ瀬島
- 寶島

勅令第四百四拾五號(明治三十年十二月十四日)

沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ保安林編入解除ニ關スル手續

- 第一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メタルトキハ編入解除ニ關スル調書ヲ調製シ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
- 第二條 保安林ノ編入解除ハ直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得
- 府縣知事ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
- 第三條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ得

沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ保安林編入解除ニ關スル手續 四七

第四條 保安林ノ編入解除ハ農商務大臣之ヲ決定ス

第五條 保安林ノ編入解除ハ官報府縣公報其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通達スヘシ

勅令第四百五十五號(明治三十年十二月二十日)

北海道保安林編入解除手續

第一條 北海道ニ於ケル保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ本令ノ定ムル處ニ依ル

第二條 保安林ノ編入解除ニ關シテ直接ノ利害ヲ有スル者ハ其ノ編入解除ヲ道廳長官ニ申請スルコトヲ得

第三條 前條ノ申請ハ其ノ所管道廳支廳長ヲ經由シテ之ヲ爲スヘシ
道廳支廳長ハ前項ノ申請ニ對シ自己ノ意見ヲ附シテ之ヲ道廳長官ニ具申スヘシ

第四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ道廳支廳長ヲ經テ意見書ヲ道廳長官ニ提出スルコトヲ得

第五條 保安林ノ編入解除ハ道廳長官之ヲ決定ス
 道廳長官ハ第二條ノ申請ヲキトキト雖必要ト認ムルトキハ保安林
 ノ編入解除ヲ爲スコトヲ得

第六條 保安林ノ編入解除ハ道廳公報ヲ以テ告示シ且其ノ所有者ニ
 通達スヘシ

第七條 本令ノ施行ニ關スル細則ハ道廳々令ヲ以テ之ヲ定ム
 附 則

第八條 本令ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

參 考 資 料

明治三十年十二月 農商務省令第拾九號森林法施行細則第二條ニ依リ調査ノ樣
 式別紙一號ノ通相定ム
 但本調査ニ添スヘキ圖面ハ別紙二號ノ書式ニ依ルヘシ

保 安 林 編 入 調 書

所在地(林ノ字 名トモ)	何府縣何郡市何町村大字何字何何番何山又ハ何林
所有者住所氏名	
申請者 通知者 住所氏名	
全 面 積	百十五町五反步
現 入 保安林編 入 面 積	七十五町步
保安林地價	

參考資料 保安林編入調書

編入ノ事由	況										
	傾斜	土性	地表	境界	樹竹種	樹竹齡	疎密	慣行ノ伐期	雜產物	慣行施業	被害ノ狀況
水源涵養土砂打止ニ必要ノ森林ト認ム	平均凡三十度	上層ハ殖質壤土(殖土殖質壤土)ニシテ砂及礫ヲ混ス深サ六寸次ハ砂質粘土層砂層及礫層ニシテ其合計深サ二尺基岩ハ綠岩ニシテ所々ニ露出ス	落葉朽土少ク稍乾燥ニシテ灌木及雜草疎生シ苔鮮ハ谿畔ニ少許ヲ見ルノミ	東ハ某所有ノ無立木地ナル山林南ハ何村共有林場西及北ハ官有原野ニ接ス	檜六分花柏四分	五十年乃至七十年生ヲ主トシ間々十二三年生ノモノヲ混ス	疎(最密密中庸疎最疎)ニシテ一町步平均三百本日光殆ント林地ニ注射ス	八九十年	蔬菜、落葉、下草等少許	需用ヲ俟テ擇採ス平均一ヶ年全而積ヲ伐採量千四百尺メニシテ空隙ニハ檜苗ヲ補植ス	良樹ノ伐採過量ナルカ故ニ林相亦昔日ノ觀ナク谿水著シク減少シ小雨ニモ土砂ヲ流シテ混濁ス

關係區域	施業法要領								
	保安林種類	伐採法又ハ禁伐	伐期	伐採面積	雜產物ノ採否	播植法	手入法	地盤工事保護	取締法
何村何村ニケ村ノ水田灌溉ニ影響シ其反別凡何町步ナリ	水源涵養林	擇伐ナレハ差支ナシト認ム	百五十年ヲ相當ト認ム	五段歩	落葉ノ採收ノミヲ許スモ差支ナシト認ム	自然生ヲ撫育シ且ツ勉メテ檜ヲ補植シ速カニ密林トナスヲ要スルモノト認ム	適宜灌木ヲ刈除シテ稚樹ノ生育ヲ保護シ且今後何年間ニ若干ノ間伐ヲ許スモ差支ナシト認ム	砂防ノ爲メ積苗工事ノ施行ヲ要スルモノト認ム	野火ノ延焼ヲ防クニ注意シ豫メ周圍ニ幅五間以上ノ防火線ヲ設ケシムルノ必要ヲ認ム

明治三十年四月法律第四十六號森林法第六條ニ依リ森林開墾ノ許可ヲ請フモノハ左ノ事項ヲ具備シタル書面ヲ以テ所管郡役所ヲ經由シ差出スヘシ

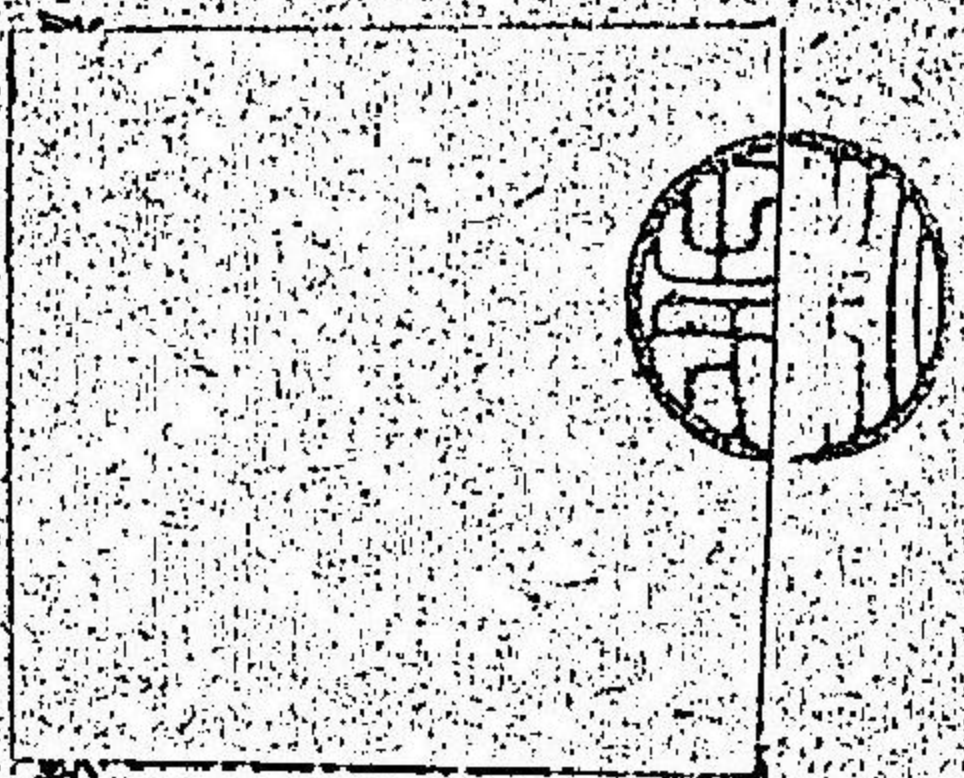
- 一 所願森林ノ所在地名、字、地書、反別
- 一 開墾ノ目的(田、畑、宅地等ヲ區別スヘシ)
- 一 四至ノ境界及隣接地目(官民有地ノ區別共)并景況(道路アラハ其種類河川アラハ其河川名)等ヲ明記シタル見取圖面
- 一 所願森林ノ狀景

(參照)

森林法抄出

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

82
81



明治三十一年七月二十二日印刷
 明治三十一年七月二十五日發行

定價金拾五錢

著者 行政法協會 伊藤直純

發行者 柴田資

發行所 行政法協會

印刷人 島連太郎

印刷所 三光社

神田區美土代町三丁目一番地

(解編)

何府縣何郡市何町村大字何字何番何山又ハ何林保安林編入調査測圖面何千分ノ一

朱書 小ナル地所ハ千分ノ一
 中ナル地所ハ二千分ノ一トナスヘシ
 大ナル地所ハ五千分ノ一

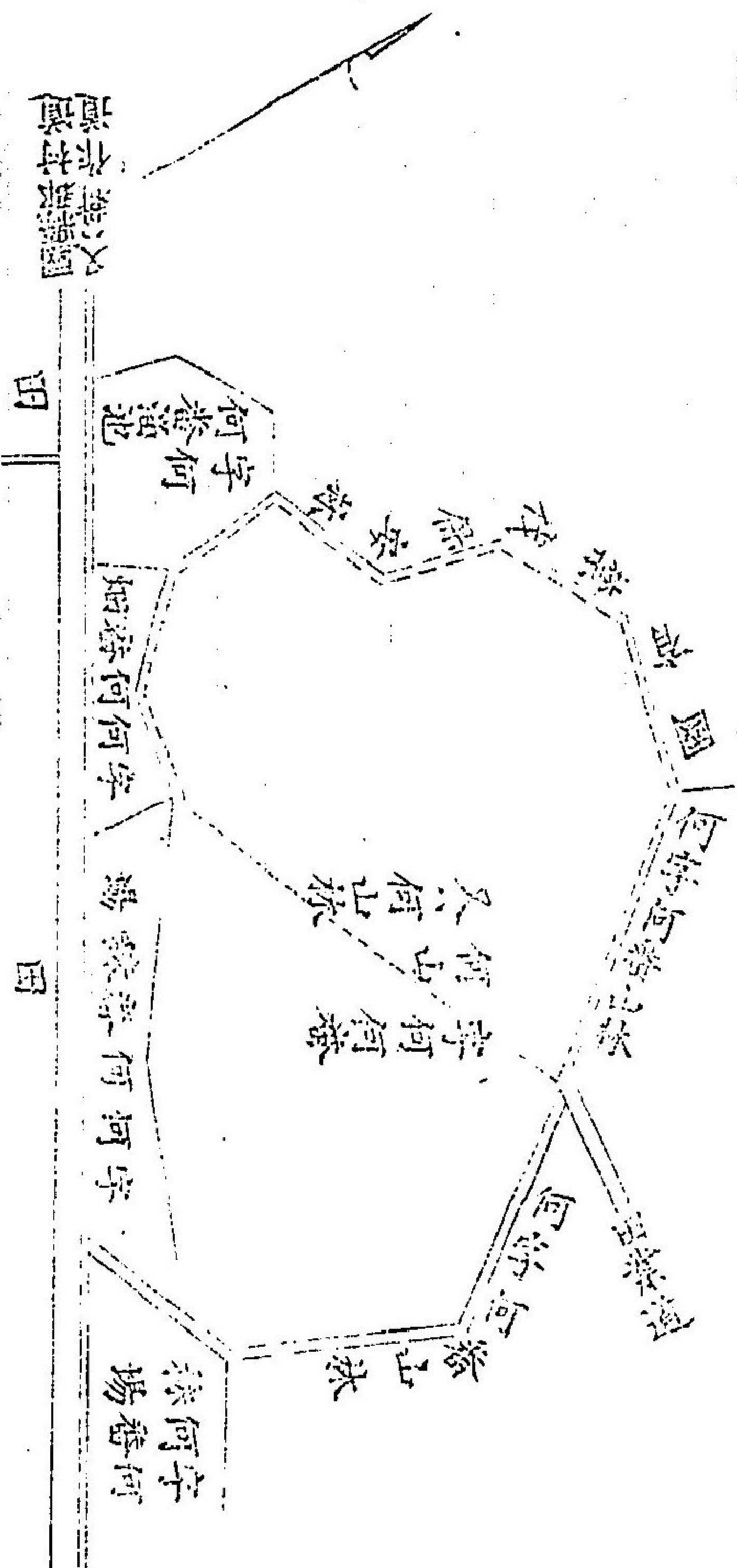
五六



(解 編)

何府縣何郡市何町村大字何字何々番何山又ハ何林保安林編入調査地圖面何千分ノ一

朱 書
 小ナル地所ハ千分ノ一
 中ナル地所ハ二千分ノ一トナスヘシ
 大ナル地所ハ五千分ノ一



凡例
 〇全地
 ①編入區畫
 ②山林原野
 ③溜池溝渠
 ④道
 ⑤路

明治三十一年七月二十二日印刷
 明治三十一年七月二十五日發行

定價金拾五錢

著 者 行政法協會 伊 藤 直 純

發 行 者 柴 田 資 郎

發 行 所 行政法協會

神田區今川小路二丁目二番地

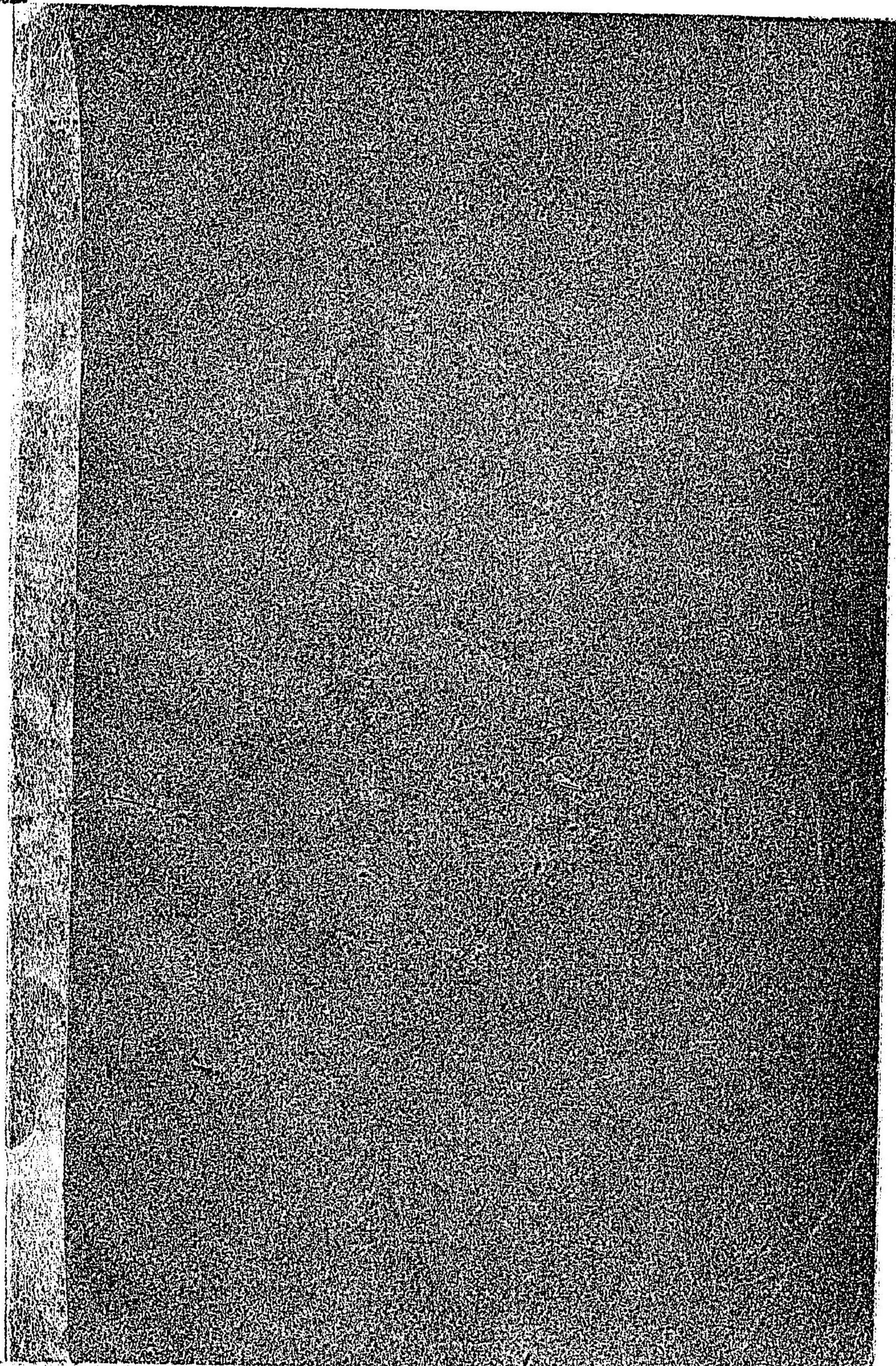
印 刷 人 島 連 太 郎

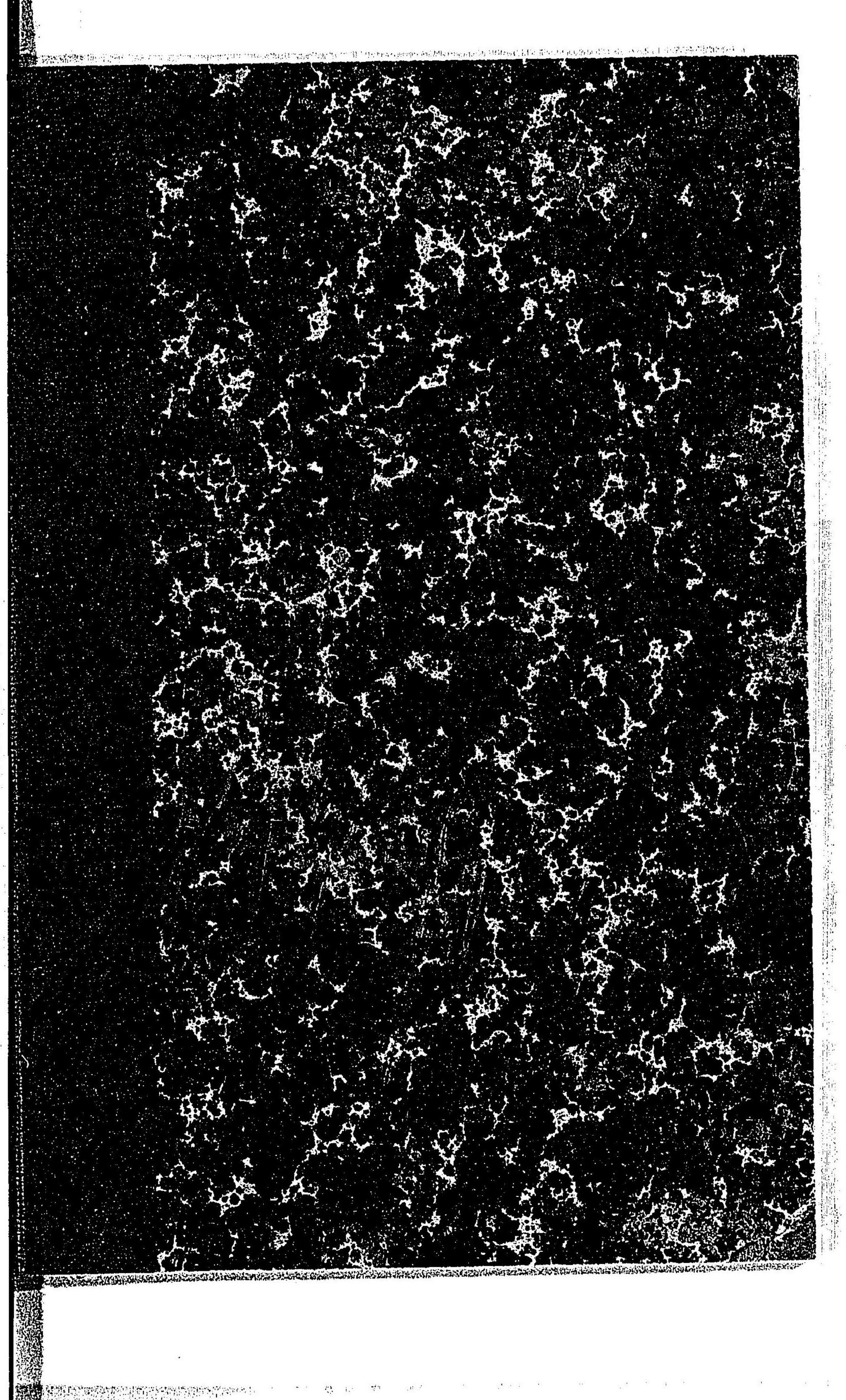
神田區美土代町二丁目一番地

印 刷 所 三 光 社

神田區美土代町二丁目一番地

82
81





8
CZ
431
06

禁電子式複写

現行
森林法規
卷

伊藤直純編纂

037500-000-7

CZ-431-06

現行森林法規

伊藤 直純/編

M31

BBU-0109

